

## 真摯な先生を偲ぶ

中川厚武

武田ミキ先生のもとで働かせていただいた二十数年を振り返ります時、多くの場面が眼前に浮かんでまいります。すべてを語ることはできませんから、特に私にとって最も印象深いことだけを語らせていただきます。就任してまず私が驚いたことは学長宅の質素なことでした。世間の常識からは、とても学長宅とはいえないものでした。しかし、それは先生の謙虚で質素、誠実なお人柄をしのばせるものでした。物質文明に侵されない人間の生き方が本来どのようなあるべきものを常に示されているようでした。学長室についても同じことでした。本館が増築され立派な学長室ができて、先生はそこに移ろうとはなさいませんでした。住み慣れた古い愛着のあるものを棄てられないというお気持ちだったのでしょう。また、人間が生活するために本質的なものは何であるのかということをお体の中にしみこませて持っておられたのだと思います。虚栄的な装飾的なものを好まなかったのでしょうか。お金で買える贅沢な品物よりも、手作りのものを尊重されました。私の母がついた蓬餅とか、栽培した野菜をとても喜んで受け取っていたことが忘れられません。

今でもはつきり脳裏に残っております先生のお姿は華美とはおよそ縁遠く、いつも地味な服装をしておられました

一、大学人としてともに生きて

た。それでも、私は先生はおしゃれな方でいらっしやると思っております。細部まで神経の行き届いた清潔な、品の良い身だしなみを心がけておられたからです。目立たないところに洗練を求めることこそおしゃれでありましょう。ほんものにこだわる心であり、生き方に通じるものでありましょう。入学式とか卒業式など学校行事の折には、袴姿で、いまだに女学生のような若々しさを滲ませておられました。

人間としての先生は何よりも誠実な方であつたと申し上げたいと思います。周囲の者の意見を一言も粗略に扱われませんでした。彼らの言葉をこと細かに心の中にとどめられ、常に反芻され、それを学園の充実のために生かすことに留意されました。少数の者の発言であつても、学園全体を視野に入れた公正でこだわらぬ判断・評価することを心がけておられたように思います。学長として当然であるといえないことはないにしても、なかなかできることではありません。学長の耳に入れておけば必ず何らかの配慮をいただける、たとえ叶えられなくても無視されているのではない、という安心感が得られました。

例をあげればきりがありませんので、校舎が短大は中島地区、四年制大学は上原地区と二分されてはいても、全学一体となつてよき大学の建設に邁進していた四年制大学発足間もない時代の思い出を二・三挙げましょう。狭い旧学長室での膝を接してのこじんまりとした教授会のあとで、トイレに消毒用石鹼液がないという話が出たことがあります。その後ほどなくして、全学のトイレにアルボース石鹼液が備え付けられました。また、入学試験終了後の反省の会が開かれた折、教室にカーテンがなかったことが指摘されました。勿論、すぐにカーテンがつけられました。お願ひすれば、研究室に不足している必要な備品はすぐに配置されました。各学科ごとの教育・研究についての学科会において出された意見を先生は逐一メモされ、可能なことはすべて実行、実現されたことはいうまで

一、大学人としてともに生きて

もありません。

生意気なことを申すようですが、先生は明治の教育の良き伝統の体現者でいらつしやつたと思います。先生は優秀な生徒・学生として、小学校以来学校でこうあるべきだと学ばれたこと「忠節、誠意、勤勉、礼儀、質素、節約、努力」など、最近では何となく目立たなくなつた徳性、しかし、我々がよき人間となるには先輩から引き継がなければならぬ徳性を真面目に受け入れ、誠実に実践されました。日本の徳性を粘り強くまた時には厳しく弟子に伝えようとなされました。学生一人一人の人間の成長はもとより、卒業後の進路にまで心をくだかれました。その背後には常に教え子への愛情がありました。時効にかかつた問題だと思ひますので述べさせていただきますが、異文化が原因といつていい、英文学科の卒業生に関わりのある一つの事件がありました。その処理の過程において終始、先生は卒業生の立場を思いやつておられることを感じました。この事件に限らず、先生の在學生・卒業生に対する愛情、心遣いは折にふれてさまざまに現れておりました。先生は、今も、「わが子」のごとき教え子、在學生、卒業生をはじめ、学園のすべてを深い愛情のこもつた眼差しで見守つていらつしやることでしよう。